

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成27年6月25日(2015.6.25)

【公開番号】特開2014-148340(P2014-148340A)
 【公開日】平成26年8月21日(2014.8.21)
 【年通号数】公開・登録公報2014-044
 【出願番号】特願2013-17953(P2013-17953)
 【国際特許分類】

B 6 5 D 1/02 (2006.01)

B 6 5 D 47/06 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 1/02 B

B 6 5 D 47/06 H

【手続補正書】
 【提出日】平成27年5月12日(2015.5.12)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

開口部を有する口首部、底部及び胴部を備えた容器本体を備え、該容器本体を把持することによって片手で持つことが可能なボトル容器であって、

前記容器本体は、片手で把持する際に、第 1 指が接する第 1 側面、他の指が接する第 2 側面、手の平を沿わせる背面及び該背面に対向する前面を有しており、第 1 側面と背面との間及び第 2 側面と背面との間に、それぞれ、容器本体の高さ方向に延びる 2 本の稜線に挟まれた平坦なパネル部を有しており、

前記背面に、容器本体の高さ方向の断面形状が、前記前面に向かって凸に湾曲した形状の背面窪み部が形成されており、

第 1 側面及び第 2 側面は、第 1 側面と第 2 側面との間の距離が、前記背面側から前記前面側に向かうにつれて漸減するテーパ部を有しており、

前記容器本体の水平方向の断面において、前記テーパ部の長さが、前記パネル部と前記前面との間の長さの 70% 以上であり、前記パネル部と前記前面との間の前記長さは、前記パネル部と前記第 1 側面又は前記第 2 側面との間の稜線と、前記前面との間の長さであり、

前記パネル部は、前記容器本体における、前記背面窪み部の深さが最も深い最深部の高さ位置より上方に、該パネル部の幅が上方に向かうに連れて拡大する幅拡大部を有している、ボトル容器。

【請求項 2】

前記第 1 側面及び前記第 2 側面のそれぞれと前記前面との間に前方稜線を有し、

前記パネル部と前記前面との間の前記長さは、前記パネル部と前記第 1 側面又は前記第 2 側面との間の前記稜線と、前記前面と前記第 1 側面又は前記第 2 側面との間の前方稜線との間の長さである、請求項 1 に記載のボトル容器。

【請求項 3】

前記第 1 側面及び前記第 2 側面は、水平方向の断面が、直線状であるのに対して、高さ方向の断面が、容器の外方又は内方に向かって凸の形状に湾曲している 2 次曲面である、請求項 1 又は 2 に記載のボトル容器。

【請求項 4】

前記背面には、前記背面窪み部が一つのみ形成されており、前記前面には、前記容器本体の高さ方向の断面形状が前記背面に向かって凸に湾曲した形状の窪みが形成されていない、請求項 1～3 の何れか 1 項に記載のボトル容器。

【請求項 5】

第 1 側面及び第 2 側面は、前記容器本体における、前記背面窪み部の深さが最も深い最深部の高さ位置より上方に、第 1 側面と第 2 側面との間の距離が上方に向かうに連れて漸増する逆テーパ部を有している、請求項 1～4 の何れか 1 項に記載のボトル容器。

【請求項 6】

第 1 側面及び第 2 側面は、容器本体の高さ方向における全域が、第 1 側面と第 2 側面との間の距離が上方に向かうに連れて漸増する逆テーパ部とされている、請求項 1～4 の何れか 1 項に記載のボトル容器。

【請求項 7】

第 1 側面及び第 2 側面は、前記胴部における、前記背面窪み部の深さが最も深い最深部の高さ位置より下方に、第 1 側面と第 2 側面との間の距離が上方に向かうに連れて漸減するテーパ部を有している、請求項 5 に記載のボトル容器。

【請求項 8】

前記容器本体の口首部に、注出口切り欠きを有する注出筒を備えた注出キャップが固定されており、該注出筒の注出口切り欠きが、前記背面側に向けられている、請求項 1～7 の何れか 1 項に記載のボトル容器。

【請求項 9】

前記容器本体の内容積が、 800 cm^3 以上 2000 cm^3 以下である、請求項 1～8 の何れか 1 項に記載のボトル容器。

【請求項 10】

前記テーパ部の前記長さの上限値は、前記パネル部と前記前面との間の前記長さと同じ長さである、請求項 1～9 の何れか 1 項に記載のボトル容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、開口部を有する口首部、底部及び胴部を備えた容器本体を備え、該容器本体を把持することによって片手で持つことが可能なボトル容器であって、

前記容器本体は、片手で把持する際に、第 1 指が接する第 1 側面、他の指が接する第 2 側面、手の平を沿わせる背面及び該背面に対向する前面を有しており、第 1 側面と背面との間及び第 2 側面と背面との間に、それぞれ、容器本体の高さ方向に延びる 2 本の稜線に挟まれた平坦なパネル部を有しており、前記背面に、容器本体の高さ方向の断面形状が、前記前面に向かって凸に湾曲した形状の背面窪み部が形成されている。第 1 側面及び第 2 側面は、第 1 側面と第 2 側面との間の距離が、前記背面側から前記前面側に向かうにつれて漸減するテーパ部を有しており、前記胴部の周方向において、該テーパ部の長さが、前記パネル部と前記前面との間の長さの 70%以上であるボトル容器を提供するものである。前記胴部の周方向における、前記テーパ部の長さ、及び前記パネル部と前記前面との間の長さは、図 2 (b) に示すように、何れも、前記容器本体の水平方向の断面における長さであり、前記パネル部と前記前面との間の前記長さは、前記パネル部と前記第 1 側面又は前記第 2 側面との間の稜線と前記前面との間の長さである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

容器本体2を片手で把持する際には、前述した通り、背面窪み部56に手の平を沿わせるようにして、該容器本体2を背面53側から把持する。

本実施形態のボトル容器1においては、第1側面51及び第2側面52は、第1側面51と第2側面52との間の距離Hが、背面53側から前面54側に向かうにつれて漸減するテーパ部Tを有しており、胴部5の周方向において、テーパ部Tの長さL2、L2が、パネル部55と前面54（前方稜線63）との間の長さL2'の70%以上である。

より具体的には、第1側面51及び第2側面52は、図2（b）に示すように、前述した平坦なパネル部55と第1側面51又は第2側面52との間の稜線61と、第1側面51又は第2側面52と前面54との間の前方稜線63との間の全域が、第1側面51と第2側面52との間の距離Hが背面53側から遠ざかるにつれて漸減するテーパ部Tとなっている。

これにより、図3に示すように、背面窪み部56に手の平を沿わせて容器本体2を把持したときに、第1指91と他の指92とが接する部位51a、52aは、前記距離Hが背面53側から遠ざかるにつれて漸減するテーパ部Tとなっており、図2（b）に示すように把持した状態から、容器本体2が前方にずれて抜け落ちることが確実に防止される。胴部5の周方向において、テーパ部Tの長さL2は、好ましくは、パネル部55と前面54（前方稜線63）との間の長さL2'の50%以上であり、より好ましくは70%以上である。なお、図2に示す例においては、前記長さL2=L2'である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

なお、本実施形態においては、第1側面51及び第2側面52は、水平方向の断面が直線状であるのに対して、前面54及び背面53は、水平方向の断面が外方に向けて凸に湾曲している（図2参照）。なお、本発明における第1側面51及び第2側面52は、水平方向の断面が、容器の外方又は内方に向かって凸の形状に僅かに湾曲している2次曲面とされていても良く、高さ方向の断面が、容器の外方又は内方に向かって凸の形状に僅かに湾曲している2次曲面とされていても良い。更に、第1側面51及び第2側面52は、容器本体の高さ方向及び水平方向の断面形状が、容器の外方又は内方に向かって凸の形状に僅かに湾曲している曲面とされていても良い。

本明細書でいう「2次曲面」は、互いに直交する2軸の1軸のみが湾曲している曲面である。

第1側面51及び第2側面52が、平坦面又は2次曲面であると、第1側面及び第2側面が広く表示性が高いので、全面に渡って一般的なラベルが貼れる点で好ましい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

他方、前面54及び背面53は、第1側面51及び第2側面52に比して湾曲の程度が大きい。第1側面51及び第2側面52は、それぞれ前面54との間に稜線63を有し、パネル部55又は背面53との間に稜線61を有しており、稜線63と稜線61との間が、第1側面51及び第2側面52となっている。稜線63及び稜線61は、それぞれ、前面54側に向かって凸に湾曲しており、稜線63は、胴部5の上部において、前面54側から背面53側へと斜めに延びる稜線64に連続している。稜線64は、第1側面51及

び第 2 側面 5 2 の上端を画成している。稜線 6 4 と口首部 3 との間は、口首部 3 に向かって、すばまった形状の肩部 5 7 となっている。前面 5 4 と肩部 5 7 とは、稜線を挟まずに連続しており、第 1 側面 5 1 及び第 2 側面 5 2 は、稜線 6 4 とパネル部 5 5 の間において稜線を挟まずに背面 5 3 と凸曲面で連続している。